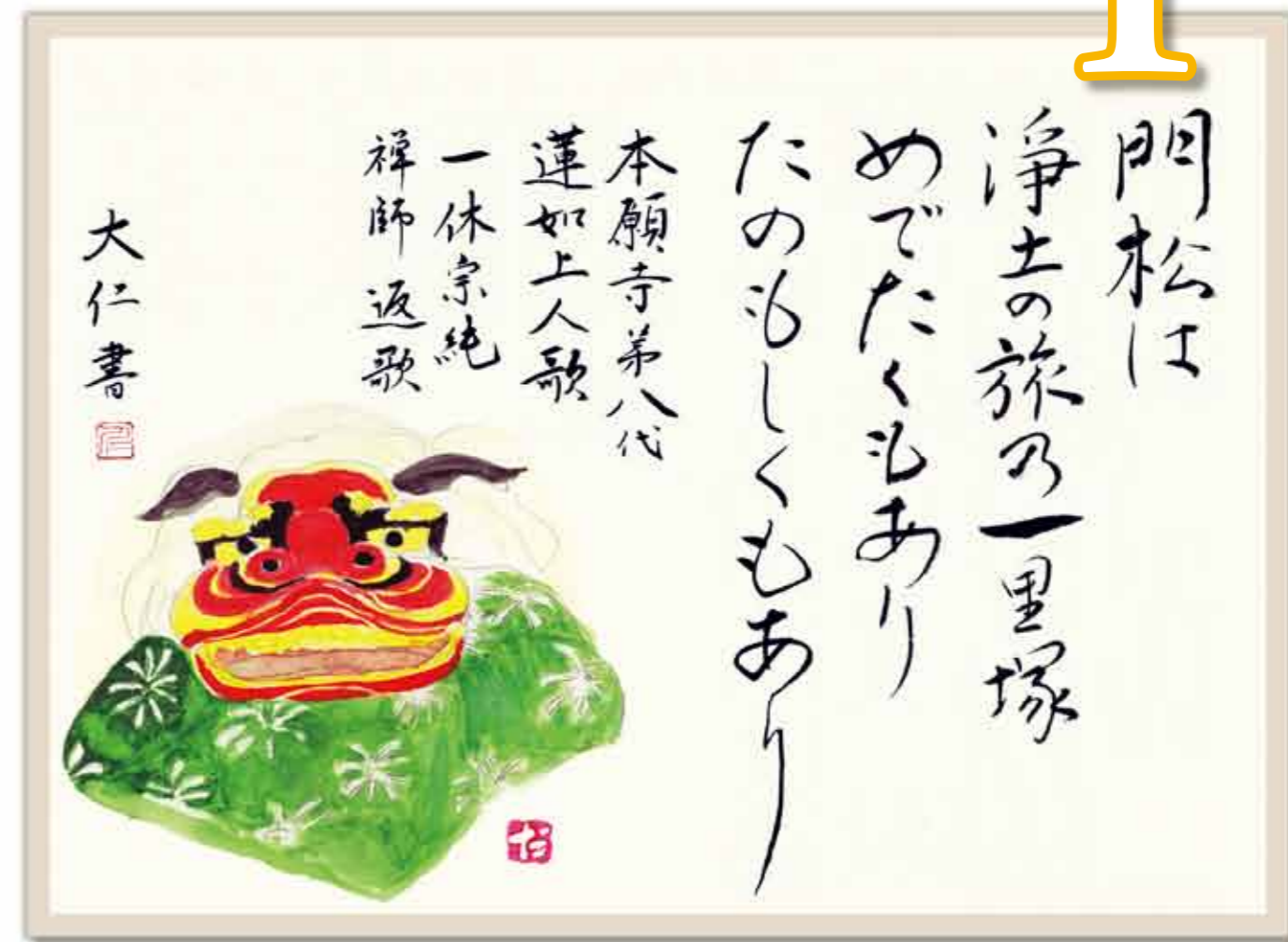
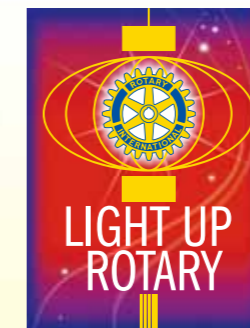
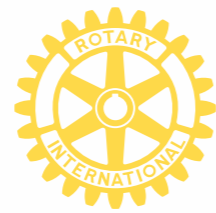


2014-2015 ガバナー月信

GOVERNOR'S Monthly Letter 1



Rotary
District 2510



国際ロータリー第2510地区 2014-2015年度ガバナー 羽部 大仁

〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11丁目4 大通藤井ビル7F TEL(011)207-2510 FAX(011)207-2512
e-mail: rid2510@nifty.com http://rid2510.org

はぶあ
ナイス
1月

今回は蓮如(1415年生-1499年寂)と一休(1394年生-1481年寂)を取り上げた。蓮如上人は我が本願寺の8代目を継職され、本願寺の中興の祖と敬われている。

また、一休宗純禪師は臨済宗大徳寺派の大徳であり、アニメの頼知小坊主の一休さんで余りにも有名である。この二人は室町時代(三代将軍足利義満)を共に生きた。一休禪師がかなり年上(二十歳以上)であるが親交が深かったようだ。

蓮如上人は本願寺第7世存如上人の長子として生まれる。母は存如の母に給仕した女性だと聞く。存如が正妻を迎えるにあたり、本願寺を退出し行方知れずになってしまった。当時の本願寺は細々と宗祖の墓守をするだけであったが、蓮如の継職を期に比叡山の本願寺破却などの苦難を乗り越え、吉崎に本願寺を移したり、また「御文」を各地の門徒に送り教宣を全国に広めるようになった。

一方一休禪師は、父後小松天皇と母藤原家で日野中納言の娘伊予の局との子であると言われていた。母の願いで5歳の頃、安国寺の像外鑑公和尚のもとで出家した。奇行・奇談が多く、都と近畿各地を説法行脚の人生であったという。

そんな二人を引き合わせた縁は定かでないが、母親の里が藤原氏日野家であり、親鸞聖人の生家も藤原氏で父日野有範を父に持つという接点も考えられる。一休禪師は親鸞聖人二百回御遠忌に若き蓮如上人の本願寺に参拝している。その時に「襟巻きの あたたかさうな黒坊主 こやつが法は 天下一なり」これを見ると言葉は悪いが私には流石というより他にない。

阿弥陀経という經典に「従是西方 過十萬億佛土」とあるが、随分遠いところに仏の国があるという言葉に掛けて「極楽は 十萬億土と 説くならば 足腰立たぬ 婆は 行けまじ」この詩を受けた蓮如は「極楽は 十萬億土と説くなれど 近道すれば 南無のひと声」と皮肉混じりの応酬が実に面白い。

CONTENTS

- ガバナーメッセージ 1
- 第10・11グループのIMを終えて 2
- 国際奉仕検証ツアー報告 3~4
- ローター財団地域セミナー(ZONE1-2-3) 出席報告 5
- 札幌南ローターアクトクラブ創立40周年 6
- 第43回 ローター研究会 参加報告 7
- ガバナー公式訪問便り 8~11
- クラブ紹介(第6グループ)/豪雨災害義援金報告(最終) 12~13
- 2014-15 ローターの友【英語版】 14
- 地区のホームページがリニューアルしました 15
- 私の雑想ノート/職業奉仕委員会から 16
- 2014-15年度 下期カレンダー/米山便り/クラブ事務所の変更について/地区委員会委員就任について 17
- 新会員のご紹介/訃報/文庫通信 18
- 出席率・会員数 19
- 地区カレンダー(1月・2月) 20

「ロータリー理解推進月間」に
寄せて



国際ロータリー第2510地区
2014-15年度ガバナー 羽部 大仁(札幌南RC)

平成27年の新春を心からお喜び申し上げます。会長・幹事さんには昨年上期には多くの成果を挙げて戴き心から感謝を申し上げます。しかしこれからは折り返しです。年度を締めくくるためにも大切な下期の活動に期待しています。

その一つに地区の重点課題の一つに掲げてあります「ロータリーファミリーを通じて会員増強を」があります。ロータリーファミリーにはインターアクトクラブの卒業生、ローターアクトクラブの経験者、青少年交換学友、財団学友、米山学友など多くの候補者がロータリークラブへの参加を待っています。若い会員を迎えるアイデアを出し合ってください。

この月間は会員にロータリーについて知識と理解を一層深めてもらい、同時にロータリーアン以外の、一般市民にもロータリーのことをよく知ってもらうためのプログラムを実施する月間です。「ロータリーの友」11月号と12月号に我々2510地区が紹介されました。皆さんにもご覧戴いたと思います。そこから伝わって来るものは、我々の奉仕の記録だけではありません。「ロータリーの友」誌には将にロータリー情報が満載されていることでした。私もこれまで永くロータリーの友を購読してきたはずですが、良く読んでいなかったかも知れません。どうか会長・幹事さんからもロータリーの友を読んで貰う事を進めて欲しいとお願い申し上げます。それと機会があれば奉仕活動の記録をロータリーの友に寄稿して

戴きたいのです。記事の掲載がロータリーの友を読む機会と必ずなります。

ロータリークラブは「人作りの場」であると公式訪問の卓話で話して参りました。ロータリーがこの110年を掛けて築いてきたロータリーの理念の基盤であった「超我の奉仕」は先ず自分のことはひとまず置いて相手の為になるかどうかを優先する。「思いやりの心」それこそが自我を抑えて他者のために尽くすことだと考えています。最近の傾向として倫理精神の低落が気に掛かるところです。従来は人間性の教育の場であった家庭や学校までもが機能低下を起し社会問題にまで進行しています。これからの青少年の抱える問題はロータリーにとっても避けて通ることの出来ない課題であると思います。

下期の活動を行う前に、今一度地域社会のニーズにあっているか、押しつけになっていないかを再点検して欲しいと考えます。財団の補助金を使うことも可能になりました。是非早い時期に次年度の会長・幹事さんとも打合せを行い、補助金の申請を進めて欲しいものです。地域社会へ向けての奉仕、海外向けの奉仕も充実してきていると感じています。これをもっと活用して戴ければクラブの活性化に繋がると確信をしています。

どうぞ奉仕活動を通じて「ロータリーに輝きを」増して下さい。地区はクラブからの要請をお待ちしています。

第10・11グループのIMを終えて

第10・11グループIM実行委員会
委員長 能戸 彰(函館五稜郭RC)

2014年11月22日(土)、函館セントラルロータリークラブと、函館五稜郭ロータリークラブがホストを務め、函館国際ホテルにおいて第10・11グループの12クラブ会員364名の登録をいただき、IMを開催いたしました。当日は、羽部大仁ガバナー、塚原房樹バスター、福田武男地区職業奉仕委員長、第6グループ担当の志比川武ガバナー補佐、長沢祐純地区幹事のご臨席を賜り盛会の中で執り行われました。

地区職業奉仕委員会では、10・11グループの会長・幹事・職業奉仕委員長を対象に「職業奉仕フォーラム」を独自に開催しようとしておりました。それを聞いた小泉・大日向両ガバナー補佐は、少人数でフォーラムを開催するよりもそれをIMに取り入れようと模索し、とうとうIMの取り組みとしての開催となりました。また、会長・幹事会で合同例会にすることも提案し、各クラブに持ち帰り、各クラブの理事会の承認を得て合同例会にもしました。IMのテーマは「職業奉仕の精神を学び、ロータリアンの心に輝きを」玉、磨かざれば光なしとさせていただきます。

基調講演は福田地区職業奉仕委員長による「ロータリーの心」、招待講演として塚原バスターによる「職業奉仕は、どこに行くのか」



という演題で各1時間ほどの短い講演時間ではありましたが、ロータリーに職業奉仕がどのような役割を持ってきたのか、またいまRIでは職業奉仕にあまり関心はないようだが、近い将来かならず職業奉仕が見直される時が来るとのお話を伺い、心強い安心感を覚えました。日本人のロータリアンにとって、職業奉仕がもっと身近に感じられる奉仕に違いないからです。

出席された会員は、ロータリーで一番難しいといわれている「職業奉仕」ですが、何かひとつでも心に残ることがあったのではないのでしょうか。あらためて、ご講演をいただきました両氏に感謝と御礼を申し上げます。

その後の懇親会では、あらためて羽部ガバナーの祝杯により開演し、友情出演による函館ロータリークラブの合唱団「ホワイトダックス」による男声合唱に酔いしれ、あつという間に「手につかないで」を歌い、閉会となりました。

14時30分の登録受付から19時30分の懇親会閉会まで、有意義で貴重なIMの一日であったと思います。

遠路よりお越しいただいた羽部大仁ガバナー、塚原房樹バスター、福田武男地区職業奉仕委員長、第6グループ担当の志比川ガバナー補佐、長沢祐純地区幹事に心より感謝申し上げ、また準備から当日まで関わって下さった、ホストクラブの会員の皆様に感謝と御礼を申し上げ、ご報告といたします。



国際奉仕検証ツアー報告

地区国際奉仕委員会
委員長 松原 重俊(砂川RC)



日頃から地区国際奉仕活動にご理解とご協力を頂いておりますことにお礼と感謝申し上げます。

当委員会は、昨年度から地区ロータリー財団委員会の協力のもと、グローバル・グラント(GG)によるタイ東北地区ロイヤルキングスクールで職業訓練支援事業を実施すべく準備を進めてまいりました。今回は、その実施予定校を訪問し先生や生徒達との交流が予定されています。その中で、出村青少年奉仕委員長の発案で、千羽鶴を届けたいと地区大会青少年並行プログラムに参加頂いた青少年交換学生、米山奨学生、ローターアクター、インターアクターの皆様は鶴を折って頂くと共に、地区内各クラブの皆様からも沢山の折り鶴が集まりました。ご協力頂いた皆様に感謝いたします。



今年度の検証ツアーは、このような状況の中で実施されました。

検証ツアーは、11月29日(土)～12月3日(水)の5日間の日程でタイ国3地区(第3360地区チェンマイ、第3340地区ノンカイ、第3350地区アムナットチャロエン)を訪問いたしました。羽部大仁ガバナー、遠藤秀雄財団委員長(PG)はじめ27名が千歳から朝の直行便でバンコクに向かいました。搭乗中、ノンカイでの職業訓練支援事業を実施するロイヤルキングスクールで折り鶴を生徒達と一緒に折る予定があり、フライトの時間を利用して各自鶴が折れるように練習を重ねたり、タイ航空CAの方に今回の

事業趣旨を理解して頂き、鶴と一緒に折ってもらったりとあつという間のフライトでした。

その後、第1の訪問地区チェンマイへ向かう航空機へ乗り換え、到着後、藤田総領事の待つ懇親会に臨みました。夜の9時過ぎにも関わらず沢山の方から心のこもった歓迎を受け、今年度事業の報告やプレゼントの交換など大変和やかな懇親会になりました。

次の日の朝、ランナチェンマイRCの皆様と3台のワゴン車に分乗し、第1の訪問校Wat pa paeng schoolでクリーンウォーター事業の検証です。先生や生徒達の歓迎を受け、鶴やお菓子をプレゼントしました。町中の学校でしたが水事情は悪く、チェックダムとともにクリーンウォーター事業の必要性を再度認識しました。

2校目は、Wat Ron Or schoolを訪問し、クリーンウォーター事業とともに恵庭RC40周年事業の一つ図書館事業を検証しました。図書館は手作りの大変温かい雰囲気、子ども達の将来にとってなくてはならない物になるでしょう。

現地ロータリアンの皆様には本当に感謝しております。検証も無事終え空路にてノンカイへ移動。

その夜はノンカイの皆様と屋外でのガーデンパーティーです。私たちの体調を考慮して頂き、気楽な雰囲気のパーティーとなりました。ノンカイのメンバーの気遣いに感謝です!





12月1日早朝から、何らかの理由で親のいない子ども達が学び生活している、職業訓練支援事業校のロイヤルキングスクールへ向かいました。子ども達や先生の歓迎を受け、技能訓練教室設置予定場所の確認と完成案の説明後、何か良い事をした子に対して奨学金事業(Good Student)、留萌RCの皆様による千羽鶴の贈呈、地区大会青少年並行プログラム時の歌のプレゼント(DVD)と、子ども達と一緒に鶴を折るなど時間を忘れるような大変楽しい一時でした。今後、この子ども達の将来に少しでも役に立てるような事業になるよう準備を進めていきます。

その後、次の日の検証のためにロイエットまでバスで300Kmの移動です。懇親会は参加者のみで誕生会など楽しい一時でした。

2日の早朝、貧困・水問題・医療問題を抱える貧しい地域のアムナットチャロエンへ向かいました。

最初の訪問校Baan Tam Tae Schoolは、昨年度、第9グループの皆様と地区補助金を利用した大変充実した設備の図書館事業がある学校です。



2校目は、Phai Yai Sueksa Schoolにクリーンウォーター事業を検証しました。子ども達の歌や踊りだけでなく、日本語を勉強している先生や子ども達の大変心のこもった歓迎を受けました。検証も無事

に終え、空路にてバンコクへ移動。着後バンコククロントイRCのメンバーと懇親会。全ての事業を終え、夜中の便で千歳へ向かい3日の朝無事到着しました。

今回の検証ツアーは、現在準備中のタイ東北部での職業訓練支援事業校を訪問する事も目的の一つであり、職業訓練講師の札幌手稲RC渡辺団長、札幌北RC大浦さんとともに神部VTT委員長はじめVTTメンバーにも参加頂きました。今回の訪問を通して、子ども達の明るい未来のために、有意義な事業になるようさらに準備を進めて行きたいと思っています。大変タイトなスケジュールになりましたが、参加頂いた羽部ガバナー、遠藤PGはじめメンバーの皆様改めてお礼を申し上げます。

今後とも地区国際奉仕事業にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



*2014-2015国際奉仕検証ツアー参加者(敬称略) 羽部G(札幌南RC)、遠藤PG(登別RC)、神部VTT委員長(滝川RC)、齊藤博之(札幌東RC)、齊藤博司(千歳セントラルRC)、出村(札幌北RC)、トーキル クリステンセン(札幌南RC)、渡辺(札幌手稲RC)、福井(札幌手稲RC)、島田(当別RC)、光川(札幌はまなすRC)、高村(様似RC)、富岡(静内RC)、山口(静内RC)、田中(留萌RC)、燕(留萌RC)、栗原(札幌北RC)、大浦(札幌北RC)、出口(三石RC)、西谷(留萌RC)、西方(岩見沢RC)、寺岡(江別西RC)、大山(札幌東RC)、斎藤(札幌北RC)、谷口(滝川RC)、田口(千歳セントラルRC)、松原(砂川RC)

ロータリー財団地域セミナー(ZONE 1-2-3) 出席報告

地区財団資金管理委員会
委員長 久保田 俊昭(札幌RC)



地区財団委員会
委員長 遠藤 秀雄(登別RC・PG)



2014年11月25日(火)、東京・台場のホテル・グランパシフィックLE DAIBAで第1～第3ゾーン294名の会員が集まって開催されました。当地区からは、羽部ガバナー、嵯峨ガバナーエレクト、遠藤財団委員長、久保田財団資金管理委員長の4名が出席しました。セミナーでは、ポリオ撲滅、平和センター、奨学金、VTT、国際奉仕等盛り沢山の内容となっており、財団関係の業務をほぼ網羅しており、さらには元奨学生や元平和フェローの現況報告やユニセフ等の外部の方からの発表も拝聴でき、現業で活躍している方々の生の声に接することができました。

セミナーの内容は多岐に亘っており、限られた紙面での報告には制約がありますので、ご来賓のご挨拶についてご報告させていただきます。

1. ゲイリー・ホアンRI会長

- 私は109年の長い歴史の中で最初の中国人会長であります。通常、英語でスピーチをしますが、RI理事会で中国語がロータリーでの主要言語に採択されたので、本日は、会長として始めて中国語でご挨拶をします。
- 在席の皆様方は、ロータリーの中で最も重要な役割を果たしており、RIが109年もの長い間続けられたのも、財団があるからこそであり、皆様の惜しみない寄付に感謝申し上げます。
- 財団の活動が非常に活発に実施されており、また多くの奨学生が恩恵を受けているのも皆様のおかげであります。
- ユニセフ東京事務所長のお話がありますが、これはロータリーへの感謝の気持ちの一端であります。ポリオ撲滅の最終段階にきており、ここで力を緩めることはできない。アドボカシー運動の実施により撲滅に大きな力となっている。
- 財団への揺るぎのない支援によって、私達は財団を通じて更なる多くのニーズに応えることができます。皆様の一層のご支援をお願いします。

2. ジョン・ケニーTRF管理委員長

- 財団はロータリー唯一の善意組織であり、ロータリーという大きなマシンを動かすエンジンでもあります。財団は、ロータリアンの寄付・善意によって成り立っており、私達の財団という誇りを持つ。世界中のロータリアンは現地のニーズを眼で見、肌で感じており、それが大きな原動力となっている。
- 2014-15年度の財団目標について説明をしたい。最初は、「ポリオの撲滅」で、最優先事項である。現在、ウイルス常在国は3か国である。今日までに20億人の子供達が救われ、寄付総額は13億ドルを超える。今ここで足を止めてしまえば、今迄実施してきたことが無駄となり、続けないとロータリーの評判を落とすことになり、今迄事業に携わってきた先輩方に申し訳が立たない。我々は30年前に撲滅に向けてスタートを切り、世間に約束してきた。我々は最後まで活動を続け、この仕事を終わらせる必要がある。
- 2番目の目標は、「ロータリー独自で唯一の慈善事業への寄付推進」である。Every Rotarian, Every Year活動を継続し、財団の重要性を理解して頂き、会員皆様のご寄付をお願いしたい。寄付の仕方には種々の方法があり、税の優遇処置もある。今年の年次基金への目標額は123百万ドルである(昨年の実績は168百万ドル)。現在メジャードナーは2,100人、アーチ・ツサエティは500名を超えている。「世界で良いことをする」ためにも、今後とも寄付推進に協力願います。
- 3番目は「持続可能な教育・人道的プロジェクトに参加することによって新補助金プログラムを確かなものにする」ことである。2007年の財団プログラム中で、20%が大規模なインパクトのある補助金で、80%が短期間のインパクトの無いプロジェクトであった。新しいプログラムでは、この割合を逆転させることを目標としている。従来は、小規模補助金の運営費と補助金自体の額がほぼ同じであった。新しい制度では持続性のあるプロジェクトに付与でき、受益者も大きな成果を受益できる。新しい補助金では、人道的・教育的なプログラムの両方に適用でき、地区補助金は地域社会、海外の地でもニーズに応じて申請できる。グローバル・グラント(GG)は、インパクトの強い長期的なプロジェクトを行う資金として財団から提供される。昨年度の実績は、地区補助金が850件・4200万ドル、GGが492件・2300万ドルである。
- 4番目は、「平和センタープログラムの推進による世界理解、平和の促進」である。今日、世界では様々な苦痛があり、不確定要素が多いが、重要なことは、人間の尊厳は国の主権を超えるということである。平和というものは非常に重要な要素であるので政治家だけに任せられず、単一の組織、一つの政府によって平和が達成されるものでもない。如何に達成されるかと言えば、様々な場面を通して、様々な地域で、多くの人々が活動することで達成される。財団では、ロータリー平和センターを設置して活動を行っている。平和センターの理想は、平和、紛争解決に携わるグループを作ることであり、彼等に成功するためのツールを提供することである。フェローの多くは、国際関係、平和研究、紛争解決への終止符について研究している。2002年スタート以来、延600名のフェローが世界各地で活躍している。
- 5番目は、「財団の未来の健全性は皆さんにかかっている」ということを強調したい。ロータリアンとして、会員同士お互いに意思・意欲を高め合って、ロータリーのプログラムをサポートすることである。これまでの活動に単に満足するだけではない。ロータリーにおける本当の仕事は、理事会や管理委員会が行っているのではなく、実質ロータリアンの方々によって為されている。ロータリアンがそれぞれの地域社会、世界の地で今迄にあったことのない受益者のためのニーズを見極めて活動していくことである。ロータリーが成長していくのか衰退するのか、奉仕が時代に即応しているのかどうか、ロータリーが尊厳をもってこれからも愛されるのかは、全て皆さんの双肩にかかっている。

札幌幌南ローターアクトクラブ 創立40周年



このたび札幌幌南ローターアクトクラブは、創立40周年を迎えました。

これまで札幌幌南ローターアクトクラブでは、様々な社会奉仕活動やクラブ奉仕活動を行ってきました。近年では石狩浜ゴミ拾いの運営のお手伝い、ロータリーリーダーでのポリオ撲滅募金活動への参加、児童養護施設「天使の園」のイベントのお手伝いなどを行っています。

今回、この40周年という節目を迎えるにあたって、これまであまり行っていなかった活動を行い、この先も行える活動はないかと考えました。また、今回の記念事業をきっかけに、これから何年も社会奉仕活動の一環として継続して実施していきたいという思いもあり、ゴミ拾いを実施しました。実施した結果としては約6時間かけて約14.5キロの道のりで、約

10袋のゴミを集めることができました。今回は南区に絞ってゴミ拾いを行いました。ですが、今後5年間にかけ札幌全体でゴミ拾いを行っていくことで、ローターアクトクラブの活動を地域の皆様に知っていただける機会となることを願っています。

式典の中で、式典参加者の皆様と児童養護施設「天使の園」へのプレゼントを作成しました。作成したメッセージカードと写真立ては後日、天使の園に寄贈させていただきました。天使の園の子供たちにとっても喜んでもらい、一緒にツリーを組み立てるといった交流をすることが出来ました。ご参加いただきました皆様有難うございます。

当クラブが40周年を迎えられたのも様々な皆様の支えがあったからだと思えます。これまで関わったすべての皆様に感謝申し上げます。



第43回 ローターリー研究会 参加報告



国際ロータリー第2510地区
地区研修リーダー 酒井 正人(函館五稜郭RC・PG)

国際ロータリーゾーン1、2、3を対象とした第43回ロータリー研究会が11月27日、28日に東京都港区台場のホテル・グランパシフィックLE DAIBAで開催されました。

招集者は北清治氏と杉谷卓紀氏の国際ロータリー理事です。

出席対象者は全てのガバナー、バスタガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニそしてガバナー補佐です。第2510地区からは羽部大仁ガバナー、伊藤義郎国際ロータリー元理事をはじめとして14名が参加しました。以前はガバナー補佐の参加は出来ませんでしたが、最近その数は徐々に増えつつあります。残念ながら第2510地区では未だガバナー補佐の参加はありません。

研究会に先立ち、26日国際ロータリー会長Gary C.K.Huangご夫妻とロータリー財団管理委員長John Kennyご夫妻の歓迎晩餐会が開催されました。

アトラクションはアーティスト・ピアノ・アンサンブルによる演奏会でしたが、そのメンバー4人全員がロータリー財団奨励学生でした。メンバー全員奨励学生としてミュンヘン国立音楽大学に留学して、マイスタークラス修了、そしてホストクラブ・カウンセラーが同じロータリアンであったことが縁で2011年に結成しプロとして活躍しています。数々のチャリティーコンサートも国際レベルで行っており、延べ約200万円の益金をロータリー財団や津波被害にあった石巻市内の中学校への支援として使用しています。まさに、ロータリー家族として模範のような活動であり、歓迎晩餐会に相応しい演出でした。

本会議は第1日目の午前中は国際ロータリー等の報告事項に続いて国内委員会の報告がされました。

午後と2日目は全日程を講演とフォーラムでプログラムされておりました。Gary C.K.Huang会長による基調講演「ロータリーに輝きを！」が行われた後に、4つのセッションでは、現職ガバナー、ローターアクト、

インターアクト等、幅広いロータリアンとロータリーファミリーの層からパネリストを選び体験談を中心に発表が行われました。

第1セッションでは「新しい風」と題して、財団学友クラブと設立と例会時間と多様性をテーマとして報告されました。

第2セッションは「未来人に輝きを！」と題して、青少年交換学生、インターアクト、ローターアクト、ライラ、財団奨励学生、米山奨励学生、平和フェロー奨励学生等による体験談を中心に報告がされました。

第3セッションはバスタガバナーにより「新しい補助金に輝きを！」と題して補助金モデルの実践報告がされました。内容はポリオ撲滅の最新情報、グローバル補助金を利用した医療VTTの派遣、国際奉仕・地区奉仕プロジェクトの実践例そして地区補助金を利用した事業について報告されました。

最後の第4セッションでは現職ガバナー6人により「34地区に輝きを！」と題して、地区の奉仕活動報告がされました。内容は震災復興事業、貧困問題に取り組んだ国際奉仕、会員の維持・増強活動、教育支援として大学での出前授業、地域活性化のための桜の植樹事業の例、そして奉仕を実践することで「公共イメージと認知度の向上」でした。

第43回ロータリー研究会は杉谷卓紀理事が以前から多くの方に実践的な話をしたいと言っていたように、今までの研究会とは少し違いを感じました。それは理論武装的なものから感動を伝えるというものに移行したように思えます。

例としては、各セッションの前に10分程度バスタガバナーの担当する「ロータリーモーメント」と題した心に残るロータリーの体験談を紹介する等、細かなところにも伺い知ることができました。

最後に我が地区からも、この研究会にガバナー補佐の参加がされることを期待して報告とします。

/ガ/バ/ナ/ー/公/式/訪/問/便/り/

室蘭ロータリークラブ 9月4日(木)

富田孝夫ガバナー補佐(松永英樹ガバナー補佐幹事)が同行し、室蘭RC中田敏行会長、北川浩一幹事、多田昌英会長エレクトが同席して会長・幹事懇談会が行われました。

とても充実した資料をご用意されており、さすがに伝統あるクラブだと感心させられました。中田会長からは地域の状況や、クラブの現状について詳細な説明を頂きました。また、今後のクラブ未来像についても、作成されている戦略計画に基づいて報告されました。併せて、室蘭ロータリークラブの定款細則について、最新版を作成し、9月1日より施行されているとの報告を受けました。

その後のクラブ協議会では、各委員会から活発で建設的な取り組みの報告があり、女性会員入会の検討やポリオのクラブ寄付1,500ドルを目標、年次寄付一人150ドルを目標、米山は一人16,000円を目標とする。地区の要請に真摯に取り組む姿勢にガバナーは感心されていました。

例会においてガバナーから室蘭RCの78年に亘る奉仕の足跡に敬意と感謝を述べられ、地区目標の1つでRIのテーマ「ロータリーに輝きを」を推進することを全会員に再度要請されました。

(同行 地区幹事:深貝亨)



洞爺湖ロータリークラブ 9月4日(木)

午後3時から前谷会長、新田幹事のご案内で洞爺町役場を表敬訪問し、真屋敏春町長から洞爺湖のカルデラ湖の歴史と内浦湾の歴史上の役割から今日の町の成り立ちまで詳しく説明を受けました。

午後4時から例会場の万世閣において、第9グループ富田ガバナー補佐(松永ガバナー補佐幹事)が同席し会長・幹事懇談会を開催。会長から会員が8名になったが、頑張って会員増強したいと抱負があり、富田ガバナー補佐もアドバイスを提案されました。

午後5時からクラブ協議会を開催。有珠山の噴火のたびに会員が減少し、人口流出も続く中、平均年齢が80歳近くとなっているとの現状の説明をうけました。クラブにとっては、若い世代の入会が急務であり、60歳前後の2名の会員に期待しつつ会員増強に努めるとの決意をお聞きました。一方、少人数なので意志決定が早いことや家族のバックアップ体制が充実している点などの特徴も伺いました。

クラブ例会は午後6時10分からでした。クラブ讃歌が多数あって2曲ずつ唱和することを聞いて、このクラブの伝統と多才な先人たちが残してくれた芸術に感服しました。ガバナーからは、地域社会に密着した奉仕活動を続けて来られたことに敬意を表しますとの挨拶がありました。

(同行 地区幹事:深貝亨)



札幌北ロータリークラブ 9月29日(月)

午前9時50分から例会場のセンチュリーロイヤルホテル2階会議室において、佐藤会長、草間幹事、八木会長エレクト、出口ガバナー補佐同席のもと会長・幹事懇談会を佐藤会長の司会進行で開会しました。

午前11時からクラブ協議会が草間幹事の司会で進められました。それぞれの委員長から活動計画と活発な活動報告が発表されました。

12時30分から例会が始まり食事のあとガバナーの卓話が始まり、「素晴らしいクラブであること、やがて以前の最多会員数114名を凌ぐ潜在的な能力があるクラブなので期待している。」ことなどを中心に伝教大師の「山家学生式」の「一隅を照らす これすなわち 国宝なり」を挙げて、伝教大師は若者の育成こそ仏門において急務な運動であることを時の桓武天皇に上奏した。このなか、悪事を己に迎え、好事を他に与え、己を忘れて他を利するは、慈悲の極みなり」とあることは、将にロータリーの「超我の奉仕」の理念と一致すると話を結ばれました。

(同行 地区幹事:深貝亨)



札幌はまなすロータリークラブ 10月7日(火)

10月7日(火)札幌はまなすロータリークラブに羽部ガバナー、出口元治ガバナー補佐が公式訪問され、小山内繁樹会長、青木貞康幹事、北川敏夫会長エレクトのお迎えを受け、午前10時より出口ガバナー補佐の司会により会長・幹事懇談会を開催。

羽部ガバナーと小山内会長は幼馴染であり、終始懐かしさを伴う和やかな会となりました。数クラブ公式訪問に同行させて戴いておりますが、本当に人と人のご縁とは思議だと思えます。

引き続き11時よりクラブ協議会開催。羽部ガバナーより重ねて地区大会、及びロータリーデーの街頭募金へのご協力を御礼を申し上げます。小山内会長より開場講師のセミナーでポリオへの認識が高まったとのこと意見を戴きました。

会員14名と少数ながら、復興支援の継続、募金活動の積極的参加、石狩市ふれあい広場への協力、職場訪問として札幌刑務所を見学。地域少年野球を対象に「はまなすカップ」を開催するなど、各委員会が積極的に活動しています。今年度は会員20名を会員増強の目標としているとのこと。

今後の札幌はまなすロータリークラブの益々のご発展を期待致します。

(文責 地区幹事:長沢祐純)



新札幌ロータリークラブ 10月8日(水)

新札幌ロータリークラブでは、第5グループ和田三ガバナー補佐に同行して頂き羽部ガバナーと公式訪問を実施しました。

午前9時50分から、田中由彦会長、大石清治幹事、宮川明会長エレクトの同席のもと会長・幹事懇談会を開催しました。その中でガバナーより地区大会に全員登録を戴き、心からの敬意と感謝を申し上げます。

また、会長からは、昨年度創立30周年を迎え心機一転してクラブの充実と発展に寄与することが大切であるので引き続きご指導を戴きたいとの挨拶の後、魅力あるクラブ運営を実践し、例会出席率の向上と会員の退会防止に努めよう、例年実施している奉仕活動の現場で、もっと新札幌RCをPRしよう、全委員で協力し、会員増強を成功させよう、地区大会や地区行事に参加しようという今年度の会長方針等が述べられました。

午前11時からクラブ協議会を開催し、先ず、ガバナーから一昨日の地区大会への参加や協力に心からの感謝を申し述べられました。引き続き各委員長から、地域社会への奉仕「月寒川にぎわい川祭り」への運営参加、ジャイカの研修生とアフリカ・南米への事業を検討、青少年を対象とした事業を実施、タイノンカイ地区へ人道支援、クリーンウォーター事業、ポリオ撲滅運動を支援、ロータリーデーの実施、IAC・RAC・青少年交換委員会・RYLAの支援等の活動計画について説明を受けました。

午後12時30分から例会を開催し、その中でガバナーから挨拶をし、地区目標の第1に挙げたRIのテーマを推進することについて話をされ、その中で、伝教大師の「山家学生式」の「一隅を照らす これすなわち 国宝なり」と紹介され、最後に阿難尊者がお釈迦様にどのように暮らせば幸せに過ごせますかとの問いに、当相敬愛(お互い愛し合い敬いあって生活する)、有無相通(有るものと無いものはお互い融通して食ってはいけない)、和顔愛語(柔らかな顔と慈しみを伴った言葉で生活する)の3つの約束を守り実践して生活することが何より大切であるというお話で結びの言葉とされました。

公式訪問に際しましては、ガバナー補佐、クラブ会員皆様のご協力を感謝申し上げます。



(同行 地区幹事:北川好和)

様似ロータリークラブ 10月14日(火)

10月14日(火)15時30分公式訪問会場である「アボイ山荘」に羽部大仁ガバナー、富永ガバナー補佐、佐々木地区幹事、斉藤地区委員をお迎えしての公式訪問が実施されました。

午後4時からの会長・幹事懇談会では当クラブの会長、幹事合わせて6名で懇談させていただき、様似ロータリークラブの現状などについて工藤会長から当クラブの特徴や活動状況の説明がされました。

その後アボイ山荘センターを見学いたしました。

引き続き午後5時からのクラブ協議会では各委員会の委員長より自己紹介を兼ねて本年度の方針と活動計画などを説明して、その後、羽部ガバナーより講評をいただき、終始和やかな雰囲気の中でクラブ協議会を終了いたしました。

6時よりクラブ例会が開催され、点鐘の後、ロータリーソングを出席者で合唱して温かな雰囲気での開会となりました。羽部ガバナーからRIのテーマ、地区の目標、ポリオ撲滅に向けての連携などについてお話をユーモアを織り交ぜ報告いただき、行き届かない点が多々あったとは思いますが、公式訪問を無事終了することができ、今後のクラブ活動に向け、とても参考になる有意義な時間を過ごすことができました。

そして終了後懇親会を開き、カラオケなどを楽しんでもいただき終了いたしました。

羽部ガバナーにはご指導をいただき本当にありがとうございました。



えりもロータリークラブ 10月16日(木)

10月16日(木) 羽部ガバナー、富永ガバナー補佐、中川地区幹事においでいただき、定刻より15分早い午前9時45分から会長・幹事懇談会を行い、羽部ガバナーの温厚な人柄もあり会話が弾みました。

午前11時からのクラブ協議会においては、各奉仕部門の委員長が参加され、今年度の活動計画が報告され、当クラブの目玉事業である春・秋の清掃活動、小学年へのランドセルカバーの寄贈、少年野球大会、少年バレーボール大会、ボランティア参加への中・高学年への表彰、福祉施設への寄贈や町事業の植樹祭、交通安全運動への参加などの事業に対し、高い評価と最高のお褒めの言葉をいただきました。

12時15分からの例会では、ガバナーの職業に関連させながらRIテーマ、地区目標、地区の戦略計画の重点課題について説明され、最後に「初代のロータリアンは聖徳太子」ではないかのお話でしめていただき、ガバナーのお人柄とお話により全員が引き込まれて、大変有意義な羽部ガバナーの公式訪問でした。

例会終了後はガバナー訪問の記念に集合写真を撮影しました。

羽部ガバナー、富永ガバナー補佐、中川地区幹事には、お忙しい中、当クラブを訪問いただきありがとうございました。



札幌西北ロータリークラブ 10月23日(木)

10月23日(木) 札幌西北ロータリークラブに羽部ガバナー、出口元治ガバナー補佐と公式訪問しました。午前10時の開会を待ち、出口ガバナー補佐の司会により桶谷治会長、布川耕吉幹事、小林秀樹会長エレクトと会長・幹事懇談会を開催。出口ガバナー補佐のホームクラブでもあり、和やかな中に忌憚のない意見交換の場となりました。

羽部ガバナーより地区大会参加、及びロータリーデーの街頭募金のご協力へ謝辞を述べられました。地区大会には多数のご登録を戴き、ロータリーデーの街頭募金には12名の参加を戴きました。

クラブの現況報告として現在会員31名、平均年齢66歳との事。かつて80名を数えた時は名前と顔が一致しないこともあったが、徐々に世代交代も進み、会員数は減ったけれどもクラブの雰囲気明るく良くなった面もあり、悪い事ばかりではないと前向きに捉え会員増強に取り組まれている様子です。

引き続きクラブ協議会では活動計画の発表があり、例会となりましたが、今年度クラブ会長方針として継続している初代清水吾吾会長が提唱された「明るく、楽しく、出席しやすいクラブ」のとおり、会員に笑いがあるニコニコしたクラブという印象です。羽部ガバナーの「相手を思いやる心をもって」が形になっていると感じました。

(文責 地区幹事:長沢祐純)



札幌手稲ロータリークラブ 10月18日(土)

羽部ガバナー、出口ガバナー補佐、中川原会長・相川幹事・渡辺会長エレクトの出席の元、会長・幹事懇談会が始まりました。

出口ガバナー補佐の司会で進行されました。その中で中川原会長から、新入会員が7月の新年度から現在まで1名入会したとお話でした。今年の目標は現在38名ですが45名の会員数にしたいとお話でした。

その後クラブ協議会に進み、相川幹事の司会でスムーズに進行、中川原会長が掲げたクラブ目標「爽やかに躍動しようロータリー」を念頭に置き、各委員長から活動計画の発表がありました。

12時30分からの例会では約20分の時間で、RIのテーマをガバナーは伝教大師「一隅を照らす、此れ即ち国宝なり」社会の一隅に在りながら社会を照らす生活をする、その人こそ、なくてはならない国宝であると話をされました。

最後に人生で幸せになるためには、1.お互いに尊敬しあい、敬いあう事 2.色々なものをお互いに独占せずに融通しあう事 3.何時も朗らかにいて、慈しみを持った言葉を使う事とユーモアを交え話をされました。札幌手稲クラブの会員の皆さんにガバナーの人柄がよく知ってもらえたいと思います。

(同行 地区幹事:田澤泰明)



赤平ロータリークラブ 10月28日(火)

赤平ロータリークラブでは、武藤哲雄第2グループガバナー補佐に同行して頂き羽部ガバナーと公式訪問を実施しました。

午前10時前から菊島好孝会長、早坂喜幸幹事、木村盛雄会長エレクトの同席のもと会長・幹事懇談会を開催しました。先ず、会長から今年度の運営方針として、「国際ロータリーのテーマと地区の目標・重点課題に添った活動をクラブの委員会が自主的に活動しやすいように奨励している。」と述べられ、祝辞の「相手の嫌がることはするな!」を活動方針に考えられていることにガバナーは大変感動されておりました。

ガバナーからは、同クラブが歴史と伝統のクラブであり、炭鉱の閉山を乗り越えて現在まで地域社会への奉仕を重点に活動を続けており、40年前からローターアクトクラブを提唱していること、ロータリーデーには市民にボリオ募金を訴えて協力されたこと、ベテランの会員が多く、特に今年はガバナー補佐がこの第2グループを纏めていることに敬意と感謝を申し述べられました。

午前11時からクラブ協議会を開催し、各委員長から、赤平の良いところはローターアクトクラブを提唱している事だが、発想の転換で新しい血を迎えなければ駄目になるので会員の智慧を借りて進めて行きたい。クラブを輝かす地域に理解されるロータリーを目指したい。「ロータリーの友11月号」に赤平の記事が掲載される等の活動計画について説明を受けました。

午後12時30分から例会を開催し、その中でガバナーが卓話をし、年度テーマや地区目標について説明し、理解を求められ、年度テーマの「ロータリーに輝きを」として、伝教大師の「山家学生式」の「一隅を照らす これすなわち 国宝なり」とを挙げて、伝教大師は若者の育成こそ其門において急務な運動であることを時の桓武天皇に上奏し、このなかに、悪事を己に迎え、好事を他に与え、己を忘れて他を利するは、慈悲の極みなり」とあることは、将にロータリーの「超我の奉仕」の理念と一致する等のお話をされました。公式訪問に際しましては、ガバナー補佐、クラブの会員皆様のご協力に感謝申し上げます。



(同行 地区幹事:北川好和)

札幌大通公園ロータリークラブ 10月21日(火)

10月21日(火) 羽部ガバナー、和田ガバナー補佐、中川地区幹事を迎えてのガバナー公式訪問が行われました。

午後5時半より「会長・幹事懇談会」が開かれ当クラブよりバトヤル会長、小笠原会長エレクト、幹事山崎の3名が出席しました。懇談会では、当クラブの現状と奉仕活動についてのご説明をさせて頂きました。

現在、男性会員12名、女性会員1名、計13名で活動しております。当クラブの年間行事の柱であります夏のボリオ撲滅街頭募金活動、秋の献血活動は、会員皆で力をあわせ毎年継続して活動している事に対して感銘していただきました。

その後、6時半より「ほっとパーティー例会」を行い羽部ガバナー、和田ガバナー補佐よりご挨拶を頂戴したあと、ロータリー活動、会員増強等に関しての意見交換をさせて頂き、大変有意義な時間を過ごさせて頂きました。

例会終了後、羽部ガバナー、和田ガバナー補佐を囲み記念写真を取り終了となりました。



砂川ロータリークラブ 10月29日(水)

羽部ガバナーに同行させていただき、武藤ガバナー補佐と共に砂川RCを訪問致しました。

午前10時から堀江会長、松原幹事、近藤会長エレクト、梶尾副会長、造田副幹事が同席して武藤ガバナー補佐の味のある司会進行で会長・幹事懇談会を開催されました。堀江会長からは会員減少について厳しいお話がありましたが、地域に根差した活動がクラブの活性化に繋がっていることが伺え輝きのあるクラブと感じました。

午前11時からのクラブ協議会では、砂川高等学校において120名の生徒が参加して出前講座が好評だったこと、リンゴ狩りを障害者と父母と先生など83名で実施し、障害者自らが餅つきを楽しむ取組みについて紹介されました。

引き続き午後12時30分からの例会に参加させていただきました。武藤ガバナー補佐から「ガバナーのお話は卓話というか講話というか説教というか」というご紹介で益々和やかに例会が終了いたしました。砂川RCの皆様、大変お世話になり有難うございました。

(同行 幹事:大作佳範)



クラブ紹介

岩内 ロータリー クラブ



クラブ例会の様子、特徴ある行事などについて今年度クラブ全会員の力を集結させて一人でも多くの会員増強を図ることが緊急かつ最大のテーマであります。

会員数の上で、会長、幹事、委員長等が持ち回りとなることの利点と、新鮮さに欠如が危惧される面があります。その様な中で、例会プログラム委員会を中心にロータリーの研鑽と会員相互の親睦融和を図り、楽しく活力あるクラブ運営に努めております。

ロータリー活動の実際的な基準である、五大奉仕の円滑な運営に知恵となるようなプログラムに心掛け、毎月一回を夜間例会として、出席率の向上に配慮しております。また、夜間例会では飲み会に終わらないよう「ロータリーのくつばやし」5分間スピーチを採用するなど工夫しながら、今年は特に「人生～いろいろ」を主題テーマに全会員卓話を実施、会員相互の融和を優先した内容となるよう取り組んでおります。

小樽 ロータリー クラブ



1933年(昭和8年)札幌RCをスポンサーとして全国13番目(現国内10番目)、北海道では2番目に創立されたクラブです。

創立から現在までに旭川、函館、小樽南、余市及び岩内RCの創立支援に関与した外、6名のガバナーを輩出し、これまで様々な地区活動・地区事業に貢献してまいりました。

11月末現在、76名の会員が在籍し、最年長89歳、最年少44歳と幅広く、平均年齢は59歳です。地区には12名の役員・委員として活躍の場を与えられております。

クラブの伝統的な考え方を尊重しつつも新しい風を取り入れていかなければならない時期に入っています。現会員の減少をできる限り抑制し、新会員の発掘・増強に努力が必要と考え、多方面に視野を広げたいと考えております。会員相互の親睦を大切にし、古い会員が新しい会員をサポートできる体制の構築を心がけ、「小樽RCイズム」を継承してゆくことが当クラブの使命であります。

倶知安 ロータリー クラブ



倶知安ロータリークラブは、おかげさまで今年度で50周年を迎えます。

ここ数年は、主に青少年奉仕に軸足を置き、町内の2高校において、キャリア学習プログラムである「カタリ場」の実施をサポートしてきました。

そして50周年記念事業では、札幌交響楽団を招聘し、普段はなかなかプロの演奏に触れる機会のない小中学生に向けた音楽指導や演奏会を行う予定です。

また今年のポリオ募金活動では、町民を巻き込んだのチャリティゴルフコンペを開催。各ホールでのプレーや表彰懇親会で頂いた皆様の善意を寄附しております。

このように、「楽しみながら奉仕の輪を広げる」若い感性と行動力が当会の特徴であります。

小樽南 ロータリー クラブ



小樽南RCは来年(2015年)2月で創立55周年を迎えます。20名で出発したクラブも現在では75名の会員を抱えるにいたりました。クラブの先輩諸氏のご苦勞を考えますと、いつも身の引き締まる思いがします。

さて、2014～2015年度(加藤正幸会長)は、青少年及び国際奉仕委員会をクラブ活動の軸と考え、多様な奉仕活動を会員一同の協力のもと、推進しております。

青少年奉仕委員会

- 小樽市のブックスタート事業への人的協力と後援。
- 小樽市「音読カップ」への審査委員としての協力。
- 「第1回小樽こどものポエムコンクール」の人的協力と金賞(小樽南RC賞)の授与。
- 小樽の全高校を対象とした優秀高校生への後援として賞状等の授与。

国際奉仕委員会

- 「ポリオプラス」事業への積極的な協力。
- 小樽青少年国際交流会議の開催。

上記にありますように、未来を託す子どもたちへ少しでも貢献できるよう、会員一同の意志は強固、それが小樽南RCと言っても過言ではありません。

小樽銭函 ロータリー クラブ



札幌と小樽の中間地点に位置し、石狩湾を一望でき、港町小樽の玄関口となる小樽銭函ロータリークラブです。

地の利で小樽RC・小樽南RCとの3クラブ合同例会・地区大会・地区評議会・IMなどの行事には、高出席率を誇っております。

会員20名足らずの我がクラブですが、平均年齢67才と決して若くないクラブで、2014～2015年度は、40周年を迎えようとしており、会員全員で何か新しい活動を模索しているところです。

諸先輩が永々とバトンタッチしてきました少年野球大会(31年)(2日間)、銭函文化協議会(27年)など、長年に渡り社会奉仕活動にはクラブ全員でサポートしております。

今後、小樽RC・小樽南RCのご指導のもと元気良く更なる活動を求め、存在感のあるクラブを目指します。

余市 ロータリー クラブ



余市RCは1961年小樽RCのスポンサーを頂き、23名の会員で創立されました。当クラブは「親睦と奉仕」を目的として会員相互の親睦と友和を図り、奉仕の理想の下、地域社会に奉仕の輪を広げてきました。

現在、会員46名で、女性会員が4名在籍し、幅広い年代層の中、若い会員も多く、豊かな経験と若いパワーを備えた組織力を生かし、青少年育成や地域との交流を図っています。

今年度の社会奉仕事業として、7月に第15回余市町全日本ジュニアサマーキャンプ大会を後援し、町内外の小中学生約80名が熱戦を繰り広げました。9月には、第31回を迎える余市ロータリー杯学童水泳大会を主催し、北後志管内の未就学児童及び小中学生約100名の参加による水泳大会を開催しました。10月には、障害者就労継続授産施設の園生を招待して、りんご狩りを開催し、リンゴの収穫と寄贈を行いました。晴天にも恵まれ、園生の皆さんと楽しいひとときを過ごしました。

蘭越 ロータリー クラブ



当クラブは、ニセコ連峰の麓にあり清流日本一の尻別川に育まれた温泉とお米の里、蘭越町で活動しております。

1968年に創立し47年の歴史があります。現在、会員数11名(うち7名がポール・ハリス・フェロー)の少数クラブで会員平均年齢も62.8歳になりますが、今年度はガバナー補佐を輩出し積極的な活動をしております。

主に高齢者施設「一灯園」や児童福祉施設「北海愛星学園」への慰問、子供たちの文化活動「少年百人一首かるた大会」への協力など地域に根差したクラブ活動を行っております。

昨年8月の羽部ガバナー公式訪問の際、ガバナーより少人数ながら立派にロータリーを運営しているとお言葉をいただき会員一同今後の活動への励みになりました。昨年のロータリーデーには会員全員で募金活動を行い、その模様は地区大会のスクリーンにも写し出され紹介されました。

当クラブは出席率も大変高く100%の出席も頻りに達成していますが、今後の課題は会員増強です。

「豪雨災害義援金」報告(最終)

～皆様のご協力に感謝申し上げます。
誠にありがとうございました～

地区内各クラブに募金のお願いを致しました8月に発生しました「豪雨災害」に対する義援金について、ガバナー月信でご報告させて頂きましたが、その後、下記6クラブより合計160,051円のお振込みがあり、最終的な総額は1,646,695円となりました。

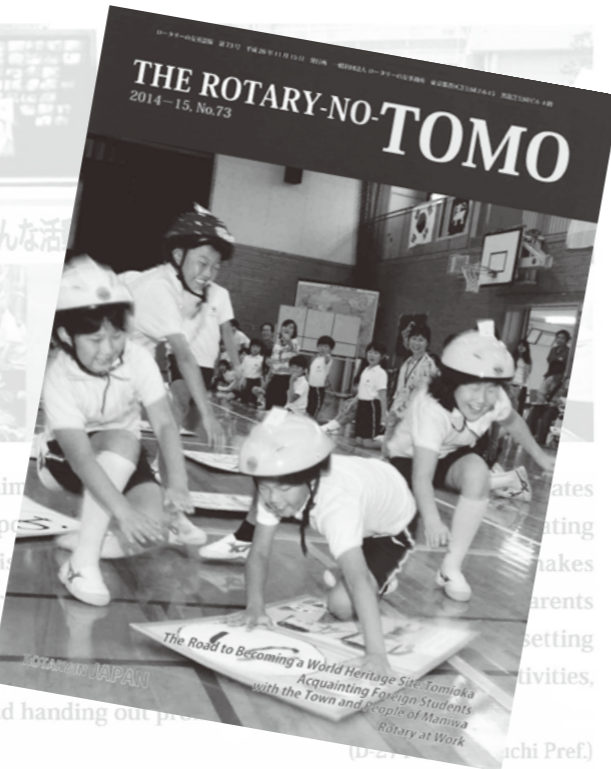
この追加でお振込み戴きました義援金は、被災地の第2710地区にお振込み致しましたので、ご報告申し上げます。ありがとうございました。

江別RC、当別RC、札幌西北RC、新札幌RC、小樽南RC、登別RC

2014-15 ロータリーの友 【英語版】

毎年11月に発行される「ロータリーの友 英語版」に第2510地区のロータリーデーの記事が掲載されています。「ロータリーの友 英語版」は「友」から海外にふさわしい記事を編集、転載。その他日本の文化、社会、経済および一般事情紹介の記事などを掲載し年1回発行しています。

定価500円＋消費税
お問合せ・購入はロータリーの友事務所まで
電話 03-3436-6651



The fourteen Rotary clubs of Sapporo

The fourteen Rotary clubs of Sapporo made October 4, 2014 a Rotary Day. Club members posted themselves on street corners and called for contributions to polio eradication and handed out leaflets explaining the campaign "End Polio Now". Following this, members gathered at one of the city's hotel, where they invited non-Rotarians and presented a lecture explaining about polio and Rotary's long effort of eradicating Polio. They included a bit of comic relief, and thanked the

THE ROTARY-NO-TOMO

townspeople for coming.

The evening program included dinner, where they amused one another with accounts of the morning's fund raising drive, and a polio eradication charity concert. All together they raised a total of approximately 800,000 yen (approximately 7,600 dollars).

Even before the day's events, a PR program was initiated to promote interest in Rotary. District 2510 governor Dainin Habu appeared on radio to talk about Rotary and the polio eradication effort, and announcements were placed in the newspaper. (D-2510, Hokkaido)

地区のホームページが リニューアルしました。



地区IC委員会
委員長 里見 英樹(札幌南RC)

この度、国際ロータリー第2510地区(北海道西部)のサイトをリニューアル致しました。

今回のリニューアルに際しましては、毎年のRIテーマに合わせてサイトイメージを調整しやすいデザインを採用しました。これにより今後は、サイト全体をリニューアルすることなく、メインイメージを入れ替えることでページを閲覧される方に毎シーズンのテーマを感じてもらえるようになります。

操作性の面では、利用者の欲しい情報にアクセスしやすいように、サイト内で利用頻度の高い項目をメインメニューとして設置し、トップページの【最新情報】ではカテゴリ別にカラーを分け、どのような情報が新たに更新されたのか一目で分かるようにしました。

他に、利用頻度の少ない項目はリンクを整理して、サイト下部の【サイトアーカイブ】や【地区クラブリンク】、【地区委員会リンク】にまとめてトップページ内のリンク数を減らし、見やすく迷いの少ないトップページにしました。

またサイト右部にフリースペースを設置し、柔軟に更新可能となっています。今後、期間限定の情報や急遽掲載したい情報にも対応できるスペースとして扱ってまいりますので、ぜひ、ご活用いただければと思います。



私の雑想ノート No.7

パストガバナー
塚原 房樹
(札幌東RC)



『職業奉仕』は菩薩の両願

奉仕団体は数多くありますが、職業奉仕という考え方は、ロータリー独自の主義主張です。しかし職業奉仕という考え方は、ロータリーの専売ではありません。職業を通じ人のために役に立ちたいと言う思想はロータリアンばかりでなく、日本ではだれでも身に付けています。

儒教、報徳、石門心学など東洋哲学の影響で自分の仕事を天職と心得、職業に貴賤を設けず、誇りを持って相手の立場にたつて商いをする商人道が江戸時代から確立されていました。職業奉仕はロータリーに入会して初めて教えられるものではなく、最初から身に付けた素養なのです。

ロータリアン以外の人々でも、自分の企業を大切に、これをもって世のため人のために貢献しようという人は枚挙にいとまがありません。ただロータリアン以外の人々はそれを職業奉仕と呼ばなかっただけなのです。今や、職業奉仕の考え方は一般の経営者の常識となり、職業奉仕は判らないの、難しいのと議論しているロータリアンより、はるかに進んだ考えで社会に貢献されています。このように職業奉仕はロータリアンでなくても実践しております。皆さんも、入会前にすでに自分の業界の中で職業奉仕の大切さを悟り、実践してきたおかげでロータリークラブの会員に推薦されました。ロータリアンは入会前にすでに職業奉仕の素養は身に付けております。

では、ロータリーに入会して何を学ぶのでしょうか。ロータリアンは自分の業界以外のことはあまり判らない。そこでロータリーに入会して異業種の会員と広く交わり、もっと広く他の世界を知ることにより自分の限界を悟り更に優れた職業人を目指す、つまりロータリーで学ぶ職業奉仕とは「異業種の知恵」を学ぶことでもあります。

仏教では「菩薩の両願は、解脱と浄仏国土である」といわれます。菩薩とは最高の悟りを開いて仏になろうと発心して修行に励む人のことで、「解脱」とは悟りを開くこと、「浄仏国土」とは衆生を済度することです。つまり菩薩は二つの願いを持つ、第一の願いは仏道を修行する、そして修行が成就したなら、第二の願いとして生きとし生けるものを皆済度したいという二つなのです。

ロータリーの職業奉仕も菩薩道と同じです。第一は、ロータリーの例会出席を通じて自己の精神的境地を高めること、第二は、この高められた境地で自分の職場を中心に世の中を明るくしていくのです。職業奉仕とは各ロータリアンに奉仕の行動を要請する高められた内面的境地のことでもあります。

職業奉仕委員会から

ロータリーの本の紹介

「ロータリー運動とは…」
小堀 憲助 著(1991年)

この小冊子は、千種会(ちぐさかい)の創設者である小堀憲助氏が1991年に行った講演の内から3つを選んで、後日それを加筆・訂正したものである。

「ロータリー運動とは…」、「奉仕、この偉大なもの」、「今ロータリーは何をもとめられているか」の3部からなっており、巻末には「決議23-34」の小堀憲助氏訳が載せられている。ロータリーの原点を学ぶには避けては通れない名著である。僅か95ページの本書であるが、何度読み返しても新しい発見がある不思議な一冊である。お正月休みに、是非一度目を通してみては如何だろうか。

職業奉仕のミニ情報

世の中のあらゆる有用な職業から、一業種一人に限定して選ばれた裁量権を持った職業人たちが、毎週開かれる例会に集まって、お互いが師になり徒になって、職業上の発想の交換を通じて、分かち合いの精神による事業の持続性を学び、友情を深め、自己改善を計り、その結果として奉仕の心を学び、自己研鑽を重ねます。この一連の活動のことをロータリーでは「親睦」、「精神的親睦」(純粹親睦)と云い、一般社会でのゴルフや飲み会での親睦(感性的親睦)と区別しております。

論文の紹介

「合理的ロータリアニズム (Rational Rotarianism)」
ポールP・ハリス 著(1911年1月1日)

1907年、親睦・物質的相互扶助だけではいけない、地域社会のためになる奉仕活動が必要だと確信したポール・ハリスは第3代会長に就任するや、親睦は奉仕をするための手段であるとしてクラブ拡大と奉仕の大切さを訴え、互恵・親睦派と激しく対立する。しかし1910年に全米ロータリー・クラブ連合会ができるころには自分の考えの大きな間違いに気が付き、「ロータリーは親睦と奉仕の調和の中に宿る」と、「寛容」の大切さを訴えるべくこの論文を書く。

そして連合会を作ったチェスリー・ペリーはそれを「ザ・ロータリアン誌」の前身である「ナショナル・ロータリアン誌」の第一号の巻頭論文として掲載する。現在は4月が「雑誌月間」になっているが、元々はこのことを記念して1月が雑誌月間であった。

職業奉仕のミニ情報

「合理的ロータリアニズム」より…
「もし、神の摂理によって、私が何処かのコロシラムの舞台に立たされて、皆さんと向かい合い、瞬時のためらいも許されず、あらん限りの声で何か一言、言えと告げられたら「寛容」と大声で叫ぶのでありましょう。もし私たちのこのロータリーが、つかの間の存在以上のものたるべく運命付けられているとすれば、それは皆さん方そして私たちがお互いの欠点を我慢し合う、すなわち寛容の価値の何たるかを学び知ったからであると言えましょう」と、ポール・ハリスは述べております。即ち、ロータリアンはそれぞれ育ちも職業も違う故に、政治的にも宗教的にもそして、ものの考え方についても考え方が異なることは当然なことであり、それに対してロータリアンは何時も寛容であらねばならないと、寛容の大切さを訴えております。

2014-2015年度 下期カレンダー

年	月	ロータリー月間強調事項	日(曜日)	地区の行事	日(曜日)	国内行事・国際行事	グループ内の行事IM、クラブ周年行事
2015年(平成27年度)	1	ロータリー理解推進月間	10(土)~15(木) 11(日) 24(土) 31(土)	各クラブ、人頭分担金送金 台湾第3490地区友情交換グループ交換受入 2015学年度米山奨学生選考試験(札幌) 2014-15年度ガバナー補佐会議(札幌) 財団学友帰国報告会(札幌)	18(日)~24(土) 18(日)	国際協議会(米国・サンディエゴ)	札幌南RC50周年記念式典予定(札幌)
	2	世界理解月間 ロータリー創立記念日、世界理解と平和の日(2/23)	21(土)	2015-16年度ガバナー補佐研修セミナー(岩見沢) 2015-16年度地区チーム研修セミナー(岩見沢)	7(土) 15(日) 28(土)		第9グループIM(室蘭) 第8グループIM予定(三石) 第3グループIM(栗山)
	3	識字率向上月間 世界ロータリーアクト週間(3/13を含む1週間) 世界ロータリーアクトの日(3/13)	5(火)~10(月) 14(土)~15(日) 15(日) 28(土)	台湾第3490地区友情交換グループ交換派遣 2015年3月終了米山奨学生歓迎会(札幌) 2015-16年度会長エレクト研修セミナー(岩見沢) 2015-16年度財団・米山セミナー(岩見沢) 青少年交換学生春季スキーキャンプ予定 第7・8・9・12グループ職業奉仕フォーラム予定(苫小牧)	29(日)		第6グループIM予定(蘭越)
	4	ロータリー雑誌月間	11(土) 12(日) 18(土)~19(日)	2015-16年度地区研修・協議会打合せ会議(岩見沢) 2015-16年度地区研修・協議会(岩見沢) 地区RYLAセミナー予定	4(土) 25(土) 24(金)~25(土)		第2グループIM予定(赤平) 第4・5グループ合同IM予定(札幌) 韓国第3700地区大会(大邱)
	5			北海道米山学友会家族懇親会予定	16(土) 17(日) 23(土)		第12グループIM予定(白老) 第1グループIM予定(深川) 恵庭RC45周年記念式典予定(恵庭)
	6	ロータリー親睦活動月間 RI国際大会	14(日) 27(土)	現新地区委員長・ガバナー補佐合同引継ぎ会議(札幌) インターアクト年次大会 ロータリー地区大会 2014-15年度終了	6(土)~9(火) 6(土) 13(土)	国際大会(ブラジル・サンパウロ)	第7グループIM予定(北広島) 俱知安RC50周年記念式典予定(俱知安)

米山便り

日本での出会いの中

グ デイ デウイ
米山奨学生 VU THI THUY
(苫小牧北RC)



時が経つのは早いもので、ふと気が付けば、わずか数ヵ月後に私は大学を卒業してしまい、大好きな友達や親愛なる先生方、そしてお世話になったロータリークラブの皆様とさよならを告げなければならなくなります。大切な人々との別れを繰り返すことの切なさを、この季節になると切実に感じ始めてきます。

厳しく長い冬が続くこの北海道の地に初めて足を踏み入れたのは新緑が芽吹き始めた4年前でした。そこから、私は世界のいろいろなところから来たいろいろな人々に出会いました。言葉や文化は多少異なりながらも他者への思いやる心を共有している彼らは、赤の他人にしか見えない私に対して家族のような愛情を注いでくれました。その見返りのない優しさに包まれて、私は生まれて初めて、人と人の心の絆は全ての壁や境界線よりも強いものだと思えました。

かつて私が日本に留学することを決めた理由の一つは、何か生きるための刺激を見つけたかったからです。幸いなことに、ここでその刺激を与えてくれる人たちに会えることができました。今や、目の前に開いてきた道はまだ果てなく続いていますが、ここまで共に歩んできた人々の思い出をいつまでも大切に、未知なる未来を拓くための原動力にしていきたいと思えます。

クラブ事務所の変更について

洞爺湖RCの幹事が退会したため、クラブ事務所を下記に変更致しますので宜しくお願い申し上げます。

新事務所：〒049-5721
北海道虻田郡洞爺湖町洞爺湖温泉54
秋田商事(株)内
TEL0142-75-3345
FAX0142-75-2430

地区委員会委員就任について

地区ロータリーアクト委員会について、新しく森RCの石山嘉治会員が委員として選任されましたので、ご報告致します。

2015年1月の
ロータリーレート
1ドル 118円

【お詫びと訂正】

12月号16ページ職業奉仕委員会からの記事内に掲載の「ロータリーの本の紹介」の本の紹介文が11月号の紹介文と同内容となっておりますので、あらためまして今月号にて再度掲載(16ページ左側)いたします。

新 会 員 の ご 紹 介 敬称略



恵庭RC
寺本 幸司
入会日:9月24日
職業分類:食品製造業



室蘭北RC
西野 義人
入会日:11月11日
職業分類:金属機械加工業

訃 報 謹んでお悔やみ申し上げますとともに心からご冥福をお祈り致します



中井 宏治 会員 (倶知安RC)
2014年9月25日ご逝去 (享年90歳)
【ロータリー歴】
1964年12月 入会 (チャーターメンバー)
1974-75年度 会長
1997-98年度 第6分区代理
ポール・ハリス・フェロー
米山功労者



佐々木 昭 会員 (千歳RC)
2014年12月8日ご逝去 (享年74歳)
【ロータリー歴】
1987年5月 入会
2003-04年度 会長
2012-13年度 第7グループ・ガバナー補佐
地区会員増強委員
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー(1回)
ポール・ハリス・ソサエティ会員

文庫通信



(327号)

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、約2万4千点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。
また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。
クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご利用願います。
以下資料のご紹介を致します。

古典文献より(3)

[下記申込先:ロータリー文庫]

◎「ロータリー感想」 佐藤 昌介 1933 2p (札幌ロータリアン第一号)
◎「ガバナース、マンズリ、レター」 井坂 孝 D.70 1933 9p (第八号)
◎「何故にロータリーを疑ふ」 村田 省蔵 D.70 1933 3p (ガバナー月報第六信)
◎「伊達にはつけぬ襟のバッヂ」 村田 省蔵 D.70 1934 1p (ガバナー月報第七信)
◎「米山長老の大演説」 米山 梅吉 D.70 1937 3p (ロータリー月報第四報)
◎「戦争と宣伝」 米山 梅吉 D.70 1937 5p (国際ロータリー月報十一月号)
◎「僕はロータリーをやめた」 D.70 1937 1p (国際ロータリー月報十一月号)
◎「村田元ガバナーに「非常時ロータリアンの覚悟」を聞く」 一記者 D.70 1937 4p (国際ロータリー月報十二月号)
◎「ロータリー倶楽部を善用せよ」 廣田 弘毅 D.70 1938 2p (国際ロータリー月報四月号)
◎「ロータリーとは何ぞやー某大官に対してロータリーを説明す」 D.70 1938 2p (国際ロータリー月報四月号)
◎「ロータリー精神の積極的発揚」 里見 純吉 D.70 1938 2p (国際ロータリー月報五月号)
◎「日満ロータリー解散文書」 米山 梅吉 1940 3p (郡山R.C.三十五年史)

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階
TEL (03) 3433-6456 FAX (03) 3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館/午前10時~午後5時 休館/土・日・祝日

出席率・会員数

グループ	クラブ数	例会数	会員数				出席率
			2014.7.1	2014.11.30	増減	内女性	
1	深川	3	33	35	2	2	84.97
	羽幌	4	47	47	0	2	71.81
	妹背牛	4	10	12	2	0	89.58
	留萌	4	40	41	1	3	75.63
	小計		130	135	5	7	80.50
2	赤平	4	29	29	0	0	72.30
	芦別	4	37	37	0	2	70.14
	砂川	4	38	38	0	0	89.47
	滝川	4	81	83	2	2	74.00
	小計		185	187	2	4	76.48
3	美唄	4	30	31	1	0	88.90
	江別	4	32	32	0	1	85.16
	江別西	4	25	26	1	3	100.00
	岩見沢	4	74	77	3	0	91.70
4	岩見沢東	4	23	24	1	3	82.01
	栗沢	4	24	24	0	1	93.50
	栗山	4	24	24	0	4	91.67
	当別	4	25	27	2	0	81.97
	小計		257	265	8	12	89.36
5	札幌	4	112	127	15	0	98.12
	札幌はまなす	4	12	14	2	2	80.36
	札幌北	2	33	34	1	3	90.91
	札幌モーニング	4	40	42	2	0	65.52
6	札幌西	4	50	53	3	7	83.38
	札幌西北	4	31	31	0	3	79.90
	札幌手稲	5	37	37	0	3	88.50
	小計		315	338	23	18	83.81
7	札幌東	4	114	124	10	0	98.72
	札幌清田	4	17	17	0	4	100.00
	札幌幌南	4	57	62	5	5	100.00
	札幌真駒内	4	22	24	2	4	100.00
8	札幌南	2	78	81	3	0	99.39
	札幌大通公園	4	12	13	1	1	65.38
	新札幌	4	22	23	1	2	92.43
	小計		322	344	22	16	93.70
9	岩内	4	18	18	0	1	82.16
	倶知安	4	40	40	0	5	53.00
	小樽	4	73	76	3	0	84.75
	小樽南	4	71	74	3	2	93.79
10	小樽銭函	3	19	20	1	2	80.00
	蘭越	2	11	11	0	0	100.00
	余市	4	45	46	1	4	81.30
	小計		277	285	8	14	82.14

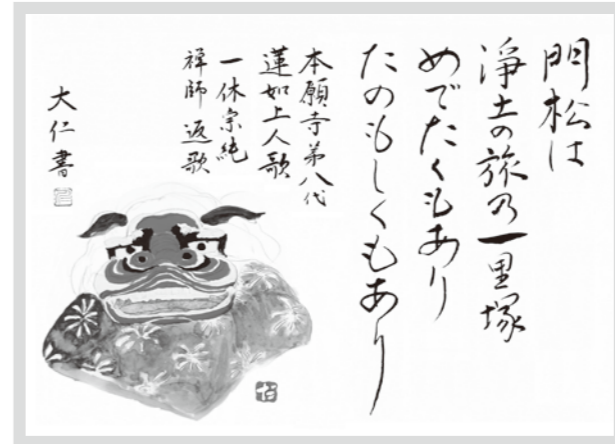
11月出席率・会員増減数
 ●クラブ数 70クラブ
 ●期首会員数 2,497人
 ●当月末会員数(女性) 2,598人(119人)
 ●増加会員数 101人
 ●当月平均出席率 82.38%

グループ	クラブ数	例会数	会員数				出席率
			2014.7.1	2014.11.30	増減	内女性	
7	千歳	4	52	58	6	5	85.18
	千歳セントラル	4	31	34	3	3	65.44
	恵庭	4	46	48	2	3	83.13
	北広島	4	17	17	0	1	92.65
8	長沼	2	19	19	0	3	75.00
	由仁	4	5	7	2	0	60.71
	小計		170	183	13	15	77.02
	えりも	4	20	22	2	1	96.59
9	三石	2	15	15	0	2	59.15
	様似	4	24	24	0	1	76.04
	静内	4	60	64	4	0	81.15
	浦河	4	22	23	1	0	94.57
	小計		141	148	7	4	81.50
10	伊達	4	57	56	-1	0	79.87
	室蘭	4	37	36	-1	0	64.60
	室蘭東	3	35	35	0	0	74.30
	室蘭北	4	40	40	0	3	67.34
11	登別	4	31	31	0	1	83.87
	洞爺湖	2	8	9	1	0	61.10
	小計		208	207	-1	4	71.85
	函館	4	81	84	3	1	76.83
12	函館亀田	2	41	42	1	5	93.75
	森	4	39	39	0	0	70.00
	七飯	4	18	17	-1	0	72.40
	長万部	2	9	9	0	0	83.30
	函館セントラル	4	27	24	-3	2	80.21
	小計		215	215	0	8	79.42
13	江差	3	10	12	2	1	67.00
	函館五稜郭	4	46	49	3	0	91.64
	函館東	4	46	49	3	5	76.58
	函館北	4	21	21	0	0	92.86
14	北斗	4	14	14	0	0	60.71
	松前	2	4	4	0	0	100.00
	小計		141	149	8	6	81.47
	白老	4	31	32	1	2	83.20
15	苫小牧	4	48	53	5	2	86.06
	苫小牧東	4	27	27	0	5	84.26
	苫小牧北	4	30	30	0	2	87.03
	小計		136	142	6	11	85.14
	合計		2,497	2,598	101	119	82.38

地区カレンダー(1月・2月)

1月 ロータリー理解推進月間	
1(木)	元日
2(金)	
3(土)	
4(日)	
5(月)	
6(火)	
7(水)	
8(木)	
9(金)	
10(土)	～15(木) 台湾第3490地区友情交換受入
11(日)	2015学年度米山奨学生選考試験(札幌)
12(月)	成人の日
13(火)	
14(水)	
15(木)	
16(金)	
17(土)	
18(日)	札幌南RC創立50周年記念式典(札幌) ～24(土) 国際協議会(米国・サンディエゴ)
19(月)	
20(火)	
21(水)	
22(木)	
23(金)	
24(土)	2014-15年度ガバナー補佐会議(札幌)
25(日)	
26(月)	
27(火)	
28(水)	
29(木)	
30(金)	
31(土)	財団学友帰国報告会(札幌)

2月 世界理解月間	
1(日)	
2(月)	
3(火)	
4(水)	
5(木)	
6(金)	
7(土)	第9グループIM(室蘭)
8(日)	
9(月)	
10(火)	
11(水)	建国記念の日
12(木)	
13(金)	
14(土)	
15(日)	第8グループIM予定(三石)
16(月)	
17(火)	
18(水)	
19(木)	
20(金)	
21(土)	2015-16年度ガバナー補佐研修セミナー(岩見沢) 2015-16年度地区チーム研修セミナー(岩見沢)
22(日)	
23(月)	ロータリー創立記念日、世界理解と平和の日
24(火)	
25(水)	
26(木)	
27(金)	
28(土)	第3グループIM(栗山)



表紙の解説

蓮如上人と一休禅師の交流を通じて一休禅師が正月を詠んだ歌「門松は冥土の旅の一里塚 めでたくもあり めでたくもなし」を蓮如上人が「門松は浄土の旅の一里塚 めでたくもあり たのもしくもあり」と返歌されたものを1月号の表紙に書きました。内容は以下の通りです。

一休禅師のこの詩は実に厳しい人間の現実を凝視しているものですね。正月と浮かれてはいられませんよ、正月を迎える度に私の迎える正月が減って行く。そのうち最後に迎えた正月を限りに冥土の旅に出て行かねばいけない。

皆さん昔の人の旅支度はどんな具合かと申しますと、水戸黄門さまのような感じですね。頭に頭巾、腕には籠手をはめ、草鞋に足には脚絆。杖に首から頭陀袋、これに六文入れると準備完了。六文銭の使い道は、六道を越える辻にお地藏さんが立っておられるのでお賽銭として一文つつお供えすることになっていたそうです。浄土真宗ではこれをしません。蓮如上人は「門松は浄土の旅の一里塚」とおっしゃってお浄土へ参るのに旅はなしです。従って旅支度の必要はなく、直ぐにお浄土へ参って無常の悟りを得ると教えられています。ですから、めでたくもあり、頼もしくも有りとお詠み返されたのでしょう。

お正月の獅子舞が懐かしく書いてみました。今年も一年楽しく参りましょう。

羽部